

潮音寺だより

第 240 号
平成 15 年 10 月
電話 052-671-4831
ファックス 052-671-4856

<ホームページ> <http://www.ne.jp/asahi/choonji/namo/>

〒456-0034 名古屋市熱田区伝馬 1 - 10-11



互いに
信頼をし
信頼されて
いるならば
契りは
たつた
一度だけで
よいのです
でも
言つて
みたいのです
何度でも
確かめて
みたいのです
何度でも
面倒がらず
何度でも
思いを込めて
何度でも

三毒

仏教について学ぼうとした者が、必ず最初に教えていただくものに「三毒」といふ考えがあります。

私どもを、煩わし悩ませる心のはたらきを「煩惱」といいますが、その数は「百八」とも「八万四千」ともいわれます。多種多様にわたって私どもの心に作用し、正しい判断を妨げるものとされます。よって、この存在を認識することには、大乘仏教と小乗仏教ではとらえ方に違いはあるものの、仏教を志す者として、最も重要な課題であります。

しかし、その数が、「百八」とか「八万四千」というのでは、とても把握できるものではありません。そこで、その根源をたゞし、自分の好むものをわざわざ求めぬ「貪

欲」、自分の嫌いなものを憎み嫌悪する「瞋恚」、ものごとの確な判断が下せずに、迷ひ惑う「愚痴」の三つに集約できるといわれます。それを、「三毒」といふのです。簡単に略して、「貪(むさぼり)瞋(いらぬ)痴(おろかさ)」といふ具合に覚えるといふようになります。

ところで、最近、ある東京在住の方が、「名古屋に行く用事がある」といったところ、「気をつけて」といわれたそうです。名古屋の住人として、残念なことです。確かに、このところ、北区・千種区で起きた通り魔殺人事件、新日鐵の名古屋製鉄所構内にある「ークス炉ガスホルダーが爆発・炎上した事故、特に、九月十六日大曽根で起きたビル立てこもり爆発事件は、なるとも衝撃的でした。

人間が起す、様々な事件や事故は、その原因を究明すれば、必ずこの三毒に行き着くものです。例えば、通り魔の犯人は、いつもヒラヒラした衣服を着用し、奪ったブランドのバックのシリアル番号の一致が決め手となったようですから、まさに、「貪(むさぼり)が引き起こした事件でありましょう。

新日鐵の火災も、安全対策の不備といふことからすれば、痴(おろかさ)に起因するものといえましよう。さらに、ビル立てこもり爆発事件では、会社・経営者に対する不満、つまり、瞋(いらぬ)が、自らの命を一瞬にして消滅させ、他多数の死傷者を出すといふ悲惨な結果を招きました。

仏典においても、この三毒に関する記述は少なくありません。い

くつか紹介させていただきます。

……………

仏陀が、朝早く托鉢たくはつをしており
ますと、一人の婆羅門ばらもんが、仏陀の姿
を見て、近寄つてきました。新しい
宗教者である仏陀に対して、快こゝろか
らぬ感情を抱いていたのです。

彼は、ありつたけの大声をあげ
て、仏陀に罵ののし雑言ざつごんをあびせまし
た。しかし、仏陀は、平然と托鉢の
歩を進めています。それで、いよいよ
よかつたくなって、土くれをつかむ
と、仏陀にむかつて投げつけまし
た。すると、たまたま一陣いちぜんの風が吹
き、投じた土くれは、土けむりとな
って彼の顔をおおいました。あ
わてふためく彼のさまを、しずか
に振り返つて、仏陀は次のように
語られたといひます。

「もし人、故なくして、悪語をは

なち、怒罵どぼをあびせし、清淨じやうじやう無垢むこなる

者を汚よごさんととなさば、その悪か
えつておのれに帰せん。

たとへば、土をとつてその人に
投なずれば、風にさかろうてかえつ
てみずからを汚すがごとじ。「」

そこで、彼は、ハッとわれにかえ
り、仏陀の前に、深く頭をたれ、無
礼をわびたといひます。

……………

また、ある時、二人の比丘びくがけん
かを始め、收拾しゆじがつかなる事態に
なりました。一人の比丘の過失を、
もう一人の比丘が責めました。そ
れで謝罪したところが、それを許
さず、今度はそれを責めるという
果合くわがに、際限なく罵ののしり合あひが續い
たといふのです。見かねて、他の比
丘が、仏陀にその顛末てんまつを報告しま
した。

仏陀は、彼らに次の偈ぎを示され
ました。

「忿おんりの領りやうに行くことなかれ。友
情に老いをあらしむるなかれ。そ
しるべからざるをそしるなかれ。
不和のことはを口にするなかれ。
山の人をおしつゝすがごとく、忿
りは愚かなる者を押しつゝす。」

さて、この二つの話には、瞋しん恚い

(いかり)のもつ恐おそさが説かれてい
ます。貪欲こんよく(むせほり)が、しだい
に人を蝕くむ毒どくのような性質を持つ
ているのに対し、瞋しん恚い(いかり)は
「山の人をおしつゝすがごとく、忿
りは愚かなる者を押しつゝす」よ
うに、ひとたびその炎えんに焼かれる
と、積年の功德こくどくも一いっ気に失うせ、その
人を台無たいむにしてしまします。

「用心、用心……。」

仏陀 ぶつだ

いまや世界宗教として絢爛たる文化を開花させた仏教とは、その創始者であるゴータマ・ブッダによる悟りの体験に始まるといえるでしょう。その悟りの内容が教義であり、悟りに到達するための実践としての修行法が成立します。

「悟り」とは、 Sanskrit 語でボーディといい、本来、ゆげめを意味します。この語根ブドの過去分詞がブッダで、目覚めた人、悟った人ということになります。仏教の開祖ゴータマ・ブッダだけをさすとは限らないわけです。

釈迦族の王子として生まれた

ゴータマ・シッダールタは、生きることの苦悩を深く見つめ二九歳のときに出家、そして菩提樹の下で縁起の法を自覚してゴータマは仏陀となったのです。三五歳のときであるといわれます。また仏陀は



住職通信

水の上に
数書くよりは
はかなきは
おのが心を
頼むなりけり

正等覚者ともいわれます。その後の釈尊（釈迦族の聖者の意）入滅までの、釈尊一代の教えが仏教として体系化されたのです。

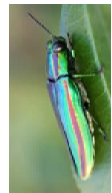
その後、仏身論がいろいろ論議され、さまざまな仏陀観があらわれます。ゴータマ・ブッダの生涯に関する仏法の研究は内外に多くの成果があります。

ひろさちや 『仏教の百科』

雑記

▼感謝 その12

新築庫裏へのご寄付を、伊藤義高様、中西守夫様より頂戴いたしました。心より感謝申し上げます。



▼ホームページ

インターネットの当山ホームページ「ナモの寺」からも、本誌『潮音寺だより』を取り出せるようにいたしました。ご利用いただければ幸いです。

▼タマムシ

朝、庭掃除をしていましたら、タマムシを見つけました。宝石のような虫の思いがけない出会いに、しばし見とれ、感激！

▼墓参り今年も

会えし曼珠沙華 沐魚